

# 小学校第3学年 図画工作科 学習指導案

## 1 題材名

「クミクミックス」(日本文教出版)

## 2 題材について

### (1) 題材観

本題材は、小学校学習指導要領2内容A表現(1)を受け、材料を基に造形遊びをする活動として設定している。身近な材料である段ボールを切り、形を変え、それらを組み合わせることで立体的な物に変化することを楽しみ、自分が手を加えることで自分の思い描く形に変化していく喜びや達成感を繰り返し実感することができる。なお、紙に切り込みを入れて組み合わせるといったシンプルな活動であるだけに、組み合わせを重ねることでイメージを広げていける題材である。

また、友だちと協力することでさらに大きな物や複雑な物をつくり出すことができるため、お互いの形を見合い、造形の工夫について話し合い、助け合う「学び合い」が期待できる。

これらのことから、本題材において主体的・対話的で深い学びを伴う造形遊びの学習を行うことは、未来の創り手となる「豊かな学び」の創造につながるものではないかと考える。

### (2) 系統観

第2学年(1月)	第3学年(10月)	第3学年(10月) 本時	第4学年(7月)
「つないでつるして」 A表現 (1)材料を基に造形遊びをする活動 ウ 並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくること。	「切ってつないで大へんしん！」 A表現 (1)材料を基に造形遊びをする活動 ウ 並べたり、つないだり、積んだりするなど体全体を働かせてつくること。	「クミクミックス」 A表現 (1)材料を基に造形遊びをする活動 イ 感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくること。	「ゆめのまちへようこそ」 A表現 (2)感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表わす活動

### (3) 児童観

○本学級は男子12名(支援学級在籍2名)、女子10名、計22名の学級である。児童は学習課題に対しては真剣に取り組むことができる。図工が好きだという児童がほとんどであり、活動には意欲的に取り組む姿が見られる。図工がまったく好きではないと答えた男児が1名おり、その理由として「思い通りにできない」「アイデアが浮かばない」ことを理由に挙げている。

○前時では、同じ材料であるダンボールを使った「切って、つないで、大へんしん」を行った。ダンボールカッターを使ってダンボールを加工していく作業を通して、思い通りの形に切ったり、割ピンでつないだりする技能は高まった。どのように変身させていくかについては、参考作品を効果的に提示したり、友だちとアイデアを出し合ったり、友だちの活動と合流したりすることで発想や構想の広がりが見られた。

○学習に関するアンケートでは、「先生やお家の人、友だちから成長していると思われていると思うか」という質問に「あまりそう思わない」と答えた児童は25%だった。他者による評価をあまり実感できていないという傾向を示している。

### (4) 指導観

○本題材は段ボールを組み合わせることで広がっていく活動を支援するため、教室の机や椅子等を運び出し、広い空間を確保する。また、製作途中に友だちとの協働学習に発展させることから、高さを想定した場の設定を考えていく。

○段ボールカッターなどの刃物を使用する活動では、児童同士の距離を適度に保つことや、使い方の指導などを事前に十分行う必要がある。前題材の「切ってつないで大へんしん」で段ボールの特性や道

具の使い方については、作業の安全を意識させるために、分かりやすい掲示物を作成したり、ICTを活用したりする。

- 友だちの活動や言葉から学び、発想や構想が変容したり、友だちとの共同製作に発展したりすることが考えられる。真似をするという捉え方をするのではなく、良いと思うもの、面白いと感じたものは新たな学びとして自分の表現に活かしていいことや、友だちと協力して共同で創作していくことで発想が広がり、技能も高まるといった見方や考え方を身に付けさせる。

### 研究の視点1

「見方・考え方」に着目した問いの工夫

- ①段ボールを組み合わせることでできた形からさらに発想し、「つくり・(思いつき)・つくりかえ・つくる」一連の活動を促したり、作品を頑丈につくる組み立て方を考えさせたりする問いかけをする。
- ②より面白い形を作るために、友だちと協力して作る活動へと発展していくための問いかけをする。

### 研究の視点2

学びを実感する振り返りの工夫

- ③「どのようなイメージで作ったらこうなった」「どのような工夫をして作ったらこうなった」という具体的な話型を用いて自分の活動を振り返らせる。
- ④グループで作品紹介を行い、面白い形、不思議な形などの造形的な言葉(共通事項)による相互評価を行わせる。

## 3 題材の目標と評価規準(参考:国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」)

題材の目標	切って形を変えた紙に切り込みを入れて、いろいろな組み合わせ方を工夫しながら、新しい形をつくり出すことができる。		
造形への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
①段ボールや厚紙などの材料を切ってつなぐ活動を楽しもうとしている。 ②自分や友だちの作品のよさや面白さを自分の見方で楽しもうとしている。	①段ボールや厚紙などをつなぎながら、新しい形を思い付いたり、その形から考えたりしている。	①材料や用具の特徴を生かして、段ボールや厚紙などをつなぐ方法を工夫している。	①自分の気持ちを話したり、友だちの考えを聞いたりしながら、作品の共通点や相違点、表現の工夫などを捉えている。

4 指導・評価の計画（5時間取扱い 本時3・4／5）

題材を貫く問い：段ボールの強い組み立て方を考えながら、「未来都市〇〇〇〇」を作ろう。

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1	<p>1 段ボールカッターで段ボールを様々な形に切って組み合わせることに興味を持つ。</p> <p>2 段ボールカッターの使い方を確認し、段ボールの切り方や組み合わせ方などについて学ぶ。</p>	<p>【関心・意欲・態度】①：行動観察</p> <p>【研究の視点1】</p> <p>①大ききの違う、たくさんの段ボールで、どんなことができそうか、共感的につぶやきを取り上げるなど、意欲を高めていく。</p> <p>・段ボールカッターの使い方は、実物投影機を活用して、視覚的に捉えられるよう支援する。</p>
二	2	<p>3 段ボールを思いのままに切り取って、切り込みを入れ、組み合わせていく。</p>	<p>【発想や構想の能力】①：行動観察</p> <p>【研究の視点1】</p> <p>①前題材の学習を活かしながら、段ボールを思いのまま切り、組み合わせる体験から発想を広げたり、ガムテープを使わない作品の組み立て方を考えたりする問いかけをする。</p>
三	3・4 (本時)	<p>4 組み合わせ方を工夫し、形の面白さや大きさなどを楽しみながらつくり出していく。</p> <p>5 友だちが作った形を見合ったり、参考作品を見たりして、さらに発想を広げ、仕上げていく。</p>	<p>【創造的な技能】①：行動観察・対話</p> <p>【研究の視点1】</p> <p>①できた形からさらに発想し、「つくり・(思いつき)・つくりかえ・つくる」一連の活動を促したり、作品を頑丈につくる組み立て方を考えさせたりする問いかけをする。</p> <p>②より面白い形をつくるために、友だちと協力して作る活動へと発展するための問いかけをする。友だちとのかかわりを見取って、協力や支え合いなどの価値付けをしていく。</p>
四	5	<p>6 できた形をいろいろな向きから鑑賞しながら、組み合わせ方の工夫や形の面白さについて話し合う。</p>	<p>【鑑賞の能力】①②：学習シート・発言</p> <p>【研究の視点2】</p> <p>③「どのようなイメージで作ったらこうなった」「どのような工夫をして作ったらこうなった」という具体的な話型を用いて自分の活動を振り返らせる。</p> <p>④グループで作品紹介を行い、面白い形、不思議な形などの造形的な言葉による相互評価を行わせる。</p>

5 本時の学習

(1) 目標

- ①段ボールの頑丈な組み合わせ方を工夫し、形の面白さや大きさなどを友だちとともに楽しみながらつくっている。
- ②友だちが作った形を見合ったり、対話したりして、さらに自分の発想を広げ、制作している。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1 本時のめあてを確認する。  学習目標 (めあて)	○前時の活動をスライドショーで振り返り、友だちの活動の様子や作り出した形の工夫や面白さを見つけて活動の意欲を持たせる。	電子黒板
	頑丈な組み合わせ方を工夫し、もっと面白い形や大きさのあるものをつくろう。		
5分	2 [本時の問い]について話し合う。	<p><b>【研究の視点1】</b> ①前時に組み合わせた形からより面白く頑丈な形を思い付くよう、造形的な視点をもとにした問いかけをする。</p> <p><b>能動型学習</b>より面白く、より大きくするためのイメージを持たせ、効果的な組み合わせ方を考えさせる。</p>	
	[本時の問い] もっと面白い形や大きさのあるものをつくるためにはどうしたらいいだろう。		
	<p>(1)活動のイメージを持つ。 (2)互いの考えを交流する。 【言語活動】(設定の意図) イメージしたことを言語化することで、活動の方向が明確になるとともに、形を表現する言葉を用いることで、さらにイメージがふくらむようにする。</p>	<p>○出来上がった「未来都市○○○○」に1, 2年生を招待することを伝え、活動の目標を持たせる。 ○どのように作りかえれば自分のイメージした形になっていくかを、共通事項を使って言語化することで明確にさせる。</p> <p><b>徹底指導</b>つくったものを見つめ直すことで、次の活動への方向性を持たせるとともに活動する中でイメージが発展したことを実感させる。また、より面白く、より大きいというキーワードを意識しながら活動させる。</p>	
展開 35分	3 組み合わせを工夫し、楽しみながらつくる。	○できた形からさらに発想し、「つくり・(思いつき)・つくりかえ・つくる」一連の活動の連続を促したり、作品を頑丈に作る組み立て方を考えさせたりする問いかけをする。	段ボール カッター
5分	4 友だちが作った形を見合ったり、参考作品を見たりして、さらに発想を広げる。	○友だちと共同して作業している様子の写真や、芸術家の作品等を鑑賞させ、仕上げのイメージを持たせる。	電子黒板
30分	5 友だちと協力しながら作品を仕上げる。	<p><b>【研究の視点1】</b> ②より面白い形を作るために、友だちと協力して活動するよう共同作業のきざしを取り上げ褒めたり、全体に紹介したりしていくなどの問いかけをする。</p> <p>○1, 2年生が驚くようなものにするためにはどうしたらいいかを考え、仕上げさせていく。</p>	

整理 10分	<p>6 学習したことをまとめる。</p> <p>(1) [本時の問い]に対して、分かったこと気付いたことをまとめる。</p> <p>(2) 自分のつくった形の気に入ったところや、友だちのつくった形の面白いところなどを伝え合う。</p> <p>【言語活動】（設定の意図）      作った形を見合い、自分のつくった形について、あるいは友だちのつくった形について言語化することで、活動の価値付けを図るようにする。</p>	<p>○友だちとのかかわりにより作品が発展したことや、頑丈な組み合わせ方など教師による価値付けを行う。</p> <p>○対話的な活動の中で友だちの作品に対して造形的な視点から、表現の価値に気づかせる。</p> <p>○教師による価値付けを基に、自分たちの作品や友だちの作品の感想を伝え合うよう促す。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>評価：創造的な技能（行動観察・対話）</p> <p><b>B基準</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段ボールの特徴を生かして、より面白い形を思いつき、工夫してつくっている。</li> <li>・より大きい形をつくるために、友だちと協力したり支え合ったりしてつくっている。</li> </ul> </div> <p><b>A基準</b> B基準に加え、段ボールカッターを上手に使って切り取り、しっかりした組み合わせ方でつくることができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友人と協力しながら、つくりたい方向性などについてイメージを話し合いながらつくることができている。</li> </ul> <p>〈B基準に達していない児童への手立て〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が止まっている児童には、どのようなイメージでつくろうとしているかについて対話しながら、イメージをふくらませていくようにする。</li> <li>・ただ大きくしたいという気持ちでつくらせるのではなく、対話をしながらどんな形にしたいというイメージを持せるようにする。</li> </ul>	学習シート
	<p>7 学習したことを振り返り、次時につなげる。</p>	<p>○「分かったところ」「できるようになったところ」「もっとやってみたいところ」について振り返らせる。</p> <p>○次時は、お互いのつくったものを紹介し合う活動をすることを告げ、意欲につなげる。</p>	学習シート